

第56回 東北農業経済学会・福島大会のご案内

新型コロナウイルスへの対応から標記大会を以下のとおりオンライン開催とすることになりました。Newsletter や学会ホームページに掲載した大会案内（予告）と開催方式が変更されています。特に個別報告は大きく変わっていますので、ご注意ください。会員各位の積極的なご参加をお待ちしております。

日 時 2020年11月20日（金）午後：編集委員会、学会賞選考委員会、役員会
11月21日（土）個別報告、大会シンポジウム、総会

◆福島大会実行委員会

委員長：荒井聡（福島大学） 事務局長：原田英美（福島大学）
事務局次長：小山良太（福島大学）

◆プログラム

第1日 2020年11月20日（金） 各種委員会等

オンライン開催（Zoom）各 Zoom ホストからアドレスの案内があります。

○編集委員会（鶴川）	16：00-17：00
○学会賞選考委員会（宮路）	17：00-18：00
○役員会（中村）	18：00-19：00

第2日 2020年11月21日（土） 個別報告、大会シンポジウム、総会

会場：YouTube 東北農業経済学会チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCkE91u2YVJT7aK0VoFE52sQ>

Google フォームで事前登録（10/20～11/15 にホームページに掲載）

○個別報告	YouTube 東北農業経済学会チャンネル
○挨拶・大会シンポジウム	YouTube 東北農業経済学会チャンネル
○特別講演と総合討論	オンライン（Zoom ウェビナー） 15：00-17：00
○総会	オンライン（Zoom ウェビナー） 17：00-17：30

※大会シンポジウムは、特別講演、コメンテーターによるコメント、総合討論を15:00 からオンラインで行いますので、それまでにシンポジウム報告等の動画を YouTube 東北農業経済学会チャンネルからご覧ください。

※資料は配布しません。個別報告要旨は、要旨集（PDF）を学会ホームページに掲載します。

大震災後の福島農業再生の到達点と課題

―復興の歩みを振り返り今後の10年を展望する―

東日本大震災から間もなく10年となる。地震・津波に加え、原発事故により福島農業は大きな被害を受けたが、懸命な復興の取り組みにより徐々に再生が図られてきた。しかし、課題は山積している。復興庁の10年延長も決定されている。

そこで本シンポでは、福島農業復興のこれまでの歩みを振り返り、今後の10年を展望し、研究課題と方法を明確化していきたい。福島農業を代表する米は、本年度、業務用比率が全国一となり、また全量全袋検査からサンプル検査へと基本的に移行した。こうした新たな段階での福島の米の再生方向を模索する。

また原発事故被災地においては、帰還が進んだ地域から順次営農が再開された。ここでは市場ニーズに即した新たな農業の取り組みも始まっている。先行して帰還が進んだ阿武隈山系の事例、遅れて営農を再開した浜通りの事例から、岩手・宮城と比較し、教訓を引き出ししていく。

そして農業経営の高度化の取り組みは全県域に及んでいる。個別完結性が強い福島の農業構造が、経営高度化の脈絡でどう変動していくか、全国的視点から展望したい。

座長 荒井聡（福島大学）・冬木勝仁（東北大学）

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| 1. 福島米の安全確保の新段階と再生の方向 | 小山良太（福島大学） |
| 2. 原発事故被災地における営農再開と新しい農業の振興 | 則藤孝志（福島大学） |
| 3. 地域資源を活用した循環型・広域連携型の阿武隈地域農村の復興 | 林 薫平（福島大学） |
| 4. 福島県における震災後の農業経営高度化の動き | 原田英美（福島大学） |
| 5. 【特別講演】 川内村における原子力災害からの復興の歩み | 遠藤雄幸（川内村村長） |

コメンテーター

小野智昭（農林水産政策研究所）

新田義修（岩手県立大学）

◆大会に関する各種申し込み等

1. 大会参加の申し込み

大会シンポジウム報告、個別報告はYouTubeに事前収録の上配信するため、登録なしでみることが可能です。オンラインで実施する総合討論、総会へ参加を希望される方は、学会ホームページ (<http://aestohoku.jimdo.com/>) から Google フォームにて **11月15日(日)まで**にお申し込み下さい。申し込みは10月20日(火)から受け付けます。Zoom ウェビナーに当日参加は出来ません。必ず事前登録をしてください。

シンポジウム参加費(資料代)はかかりません。

2. 個別報告の申し込み

個別報告を次の要領で募集いたします。ふるってご応募下さるようお願い申し上げます。

個別報告プログラムを11月初旬に学会ホームページ (<http://aestohoku.jimdo.com/>) に掲載しますのでご確認ください。

(1) 申し込み方法

5頁の「個別報告申し込み票」に必要事項を記載して、**10月20日(火)までに**、Eメールにてお申し込み下さい(申し込み先は次頁表を参照)。

(2) 報告要旨の作成要領

個別報告を申し込まれた方は、下記要領で報告要旨を作成してください。原則として、提出原稿がそのまま要旨集として印刷されますので、執筆要領を遵守・確認願います。

- ① A4サイズ1枚、横書き、モノクロ、余白(マージン)は上下左右 **25mm**
- ② フォントは和文 MS 明朝、英字 century。10.5～11ポイント。42字×36行に設定
- ③ タイトル 16ポイント、強調(ボールド)、氏名と所属機関 12ポイント

※イメージは次のようになります。ご参考にしてください。

< A4用紙1枚、横書き、モノクロ >

余白 25mm	(1行あき) 水田農業の構造と展開<16p 強調> 東北太郎・宮城菰子*・仙台四郎**<12p> (〇〇大学・*××大学・**△△試験場) <12p> (1行あき) 宮城県において、・・・・である。<10.5～11p>
--------------------	--

(3) 報告要旨の提出

10月20日(火)までに、MSワード、リッチテキストいずれかのファイルを添付ファイルでEメール送付して下さい(提出先は下表)。

なお、提出の際には、氏名、所属、連絡先(住所、電話番号、Eメールアドレス)も併せてお知らせ下さい。

(4) 個別報告の3つの方式

個別報告は、次の3つの方式から選択してください。

- A. 報告要旨提出+報告動画提出+報告論文投稿
- B. 報告要旨提出+報告動画提出
- C. 報告要旨提出+報告論文投稿

報告論文を投稿する場合(A、C)は、投稿原稿および投稿票を『農村経済研究』投稿規程にしたがい作成し、10月20日(火)までに提出してください。また、個別報告における質疑をふまえた修正を行う場合、11月27日(金)までを再提出期間とします。提出期限と提出先は下表のとおりです。

表 個別報告の申し込み・問い合わせ先

	提出期限	申し込み・問い合わせ先	A	B	C
個別報告申し込み	10月20日(火)	原田英美 福島大学 農学群食農学類 harada-h@agri.fukushima-u.ac.jp	○	○	○
報告要旨	10月20日(火)		○	○	○
報告動画	11月15日(日) 17:00	高山太輔 福島大学 農学群食農学類 Tel: 024-503-4979 takayama@agri.fukushima-u.ac.jp	○	○	-
大会個別報告を 基にした論文投稿	10月20日(火) ※再提出 11月27日(金)	東北農業経済学会編集委員会 submissiontojrse@grp.tohoku.ac.jp	○	-	○

(5) 個別報告の報告時間及び動画作成

- ① 報告時間は20分です。報告者は時間厳守をお願いします。
- ② 報告者は、**11月15日(日)17:00まで**に、20分以内に収録した動画を上記動画提出先にお送りください。動画ファイルの提出は、ファイル転送サービスの使用を推奨します。
- ③ 動画の作成方法に関しては、PPTに動画 or 音声埋め込み、収録動画に adobe プレミア等でテキスト・画像挿入などの方法があります。各自、方法を検索して動画を作成してください。
- ④ 資料の配布は行いません。資料配布をしない前提で動画を作成してください。
- ⑤ 大会終了後に座長からコメントがEメールで届きます。必要な修正や回答などを座長との間で行ってください。

===== 個別報告申し込み票 =====

福島大学食農学類 原田英美 へ

締切 10 月 20 日（火）

※下記の項目についてテキスト入力し、Eメールで送付してください。
(送付先 harada-h@agri.fukushima-u.ac.jp)

氏 名： _____

所 属： _____

電 話： _____

Eメールアドレス： _____

1. 報告テーマ _____

2. 報告方式（○をつけてください）

A. 報告要旨提出 + 報告動画提出 + 報告論文投稿

B. 報告要旨提出 + 報告動画提出

C. 報告要旨提出 + 報告論文投稿

3. 学生の方は次もご記入ください

指導教員氏名 _____ Eメールアドレス _____